

筑西市立上野小学校の業務改善

I 上野小デジタルトランスフォーメーション(UDX)推進による業務改善

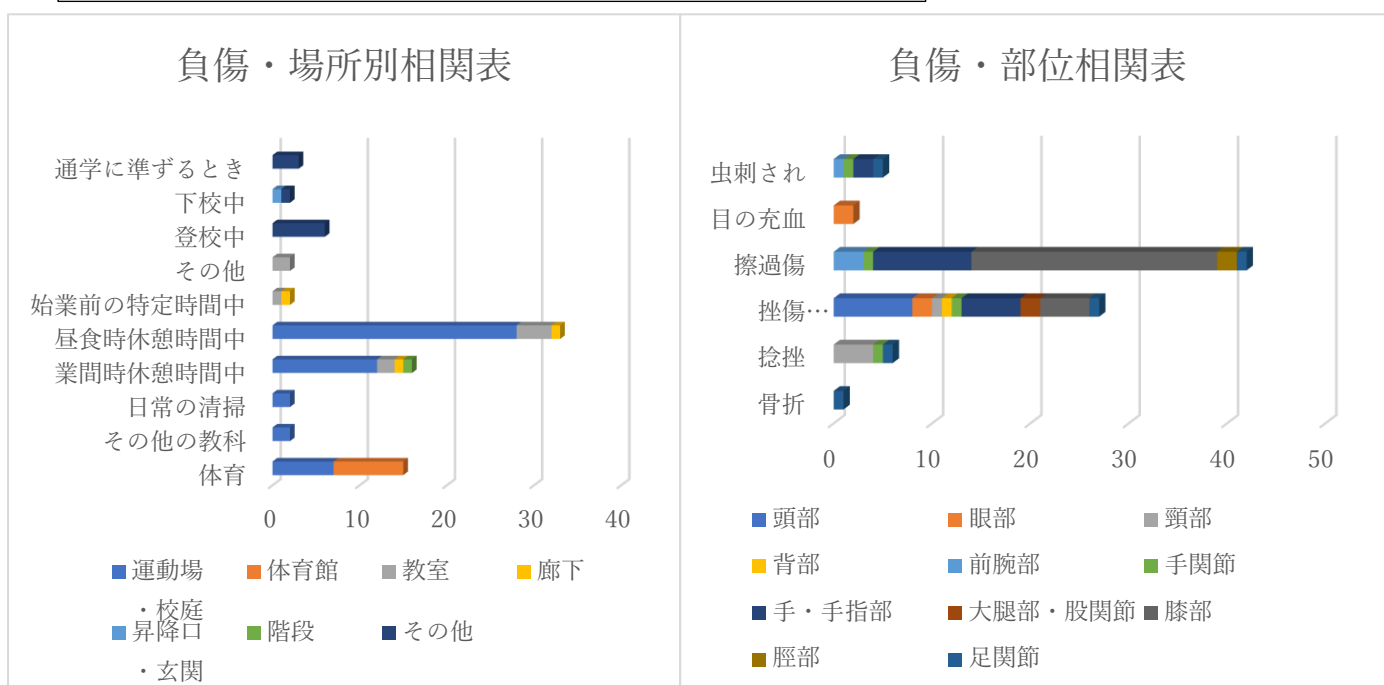
デジタルトランスフォーメーション(DX)とは、「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」、「デジタルによって仕事や生活が変革される」こと。

(I) UDXで教護教諭の緊急事態対応を減少させ、平時業務の時間を確保

令和2年度まで、上野小学校児童の保健室利用は、校医休診日の水曜日に集中していた。そこで、水曜日の保健室利用の詳細を可視化し、データ分析を実施した。

データに基づく客観的課題

- ・負傷の多くは、「昼休み」「運動場」「擦過傷」「膝部」である。



○ 対策

- ・怪我多発時間・箇所の共通理解を図る。
- ・ピンポイント注意喚起を行う。
- ・体育授業のウォーミングアップとして「外傷・障害の予防プログラム」を実施し、相手との接触で倒れないための筋力やバランス能力の向上に努める。

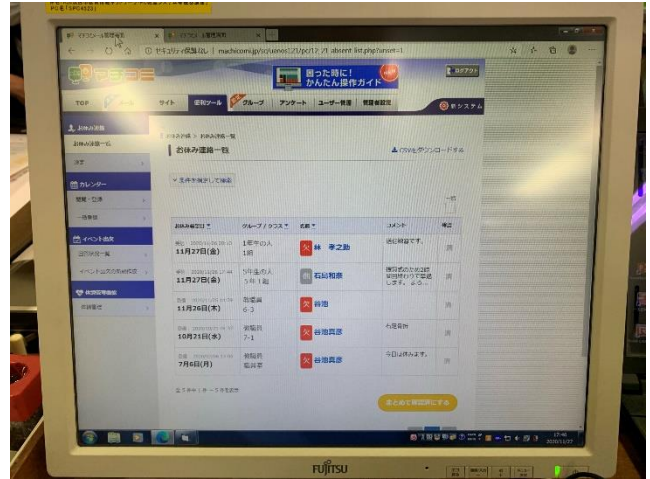
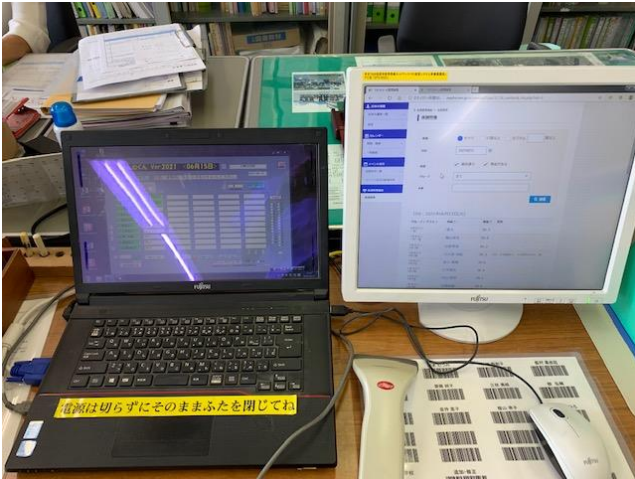


緊急対応減少 → 平時業務の時間確保 → ゆとりある通常業務 子どもと向き合う時間の確保

(2) UDX で出欠席・検温健康観察のデジタル化

学校・施設向け無料のメール連絡網サービス「マチコミ」の「お休み連絡機能」「体調管理機能」を活用し、始業前の電話対応を削減する。

「児童がランドセルからだした健康観察カードを受け取る」「担任が提出者確認」「内容確認」「押印」「未提出者の検温・問診」の業務フローを排除。



(3) UDX で保護者アンケート・カウンセリング予約のデジタル化

各種調査や予約をオンライン上で実施するネットリサーチ型に変更。集約・集計業務フローを排除。



(4) UDX で夜間・休日の問合せのデジタル化

休日及び平日の17:00以降の問合せ、PCR 検査関係の連絡は「連絡フォーム」を活用するように積極的に促している。

連絡フロー 「管理職アドレスに着信」→「内容確認」→「担当者に連絡」→「保護者対応」

職員連携のロスが軽減
担任の精神的負担減



ゆとりある通常業務 子どもと向き合う時間の確保



※ Apple Watch に情報が集約されるので、見落としがありません。

(5) UDX で保護者配付文書や会議資料の完全ペーパーレス化

上記2点について完全ペーパーレス。

「印刷」「枚数確認」「配付」「(ホチキス止め)」等の業務フローを排除。

※ 保護者配付は、学校・施設向け無料のメール連絡網サービス「マチコミ」に添付配信。

(6) UDX で AI ツールの単元計画への位置付けによる業務改善

AI が「その子が解くべき問題を出題(個別最適化)」

AI を活用して学習の最適化を実現するサービスは、既に提供が始まっている。上野小学校では、週末タブレット持ち帰りを実施している(その週に学んだ内容の定着確認テスト及びドリル)。児童が解いた問題を AI が分析し、一人ひとりのレベルに合わせて、苦手な単元やつまずきを解決するために「その子が解くべき問題を出題」。児童が解いている問題の正答率や回答時間をリアルタイムに収集・分析し、児童の学習の進み具合や問題の正答率から授業内容を改善している。学習の最適化だけでなく職員の学習指導のサポートにも活用でき、教材研究の時短につなげている。

1人1台端末の活用

	あり	なし	
Wi-Fi環境	70	2	(※テザリングによる接続可能) ※ 72世帯中

○ 4～5月週末持ち帰り活用状況

※ 4月30日(金)より、週末持ち帰り実施

	確認テスト		ドリル学習	
	平均実施回数	平均点	平均実施回数	平均点
1年生	1.4	91.8	18.4	93.6
2年生	0.7	90.6	20.0	78.7
3年生	4.6	73.6	26.2	78.9
4年生	3.2	78.3	4.1	76.4
5年生	4.1	81.6	10.7	81.0
6年生	3.8	75.3	1.5	80.8

○ 個人成績表示例

成績管理

学年: 小学5年 クラス: 1組 氏名: 森村 悠斗

学習学年: 小学5年 期間: 2021年度

取組姿勢 学習行動

教科	確認テスト			ドリル学習			国内各科目得意 苦手	
	実施回数	平均点	無回答率	学習回数	平均点	無回答率	得意	苦手
算数	3	100	0%	15	97.4	0%	10	0
国語	未実施	-	-	1	100	0%	1	0
理科	1	84	0%	8	85.5	0%	2	0
社会	2	79	0%	1	100	0%	7	5
英語	未実施	-	-	2	80	0%	1	0

得意と苦手が蓄積されて、以降「個別最適化」された「その子が解くべき問題」が出題されるようになる。

月	実施教科/出題教科総数	実施率	回数	平均点(%)	得意/苦手/無回答	回数	回数
4月	未実施	-	7	21.7	0/0	0	3
5月	4/6	66.7%	23	19.5	0/0	0	11
6月	未実施	-	-	-	0/0	-	-

月	08時～	11時～	14時～	17時～	20時～	22時～	0時～	04時～	傾向
4月		7		1					
5月	3			2				4	早朝学習
6月									

帰宅後すぐに取り組んでいます。

早朝4回も取り組んでいます。

(7) UDX で会議を効率化

① 職員終会の廃止

連絡事項や共通理解が必要のことは、Microsoft Teams の指定チャンネルに投稿します。いつでもどこでもスマホでも確認可能になったので、木曜日の放課後に行っていた『職員終会』を廃止しました。

② 職員会議の時短

職員会議資料を Microsoft Teams に投稿することで、会議前に内容を把握できます。時短につながりました。

2 業務フロー見直しによる業務改善

業務フォロー見直しの視点 →

毎回のようにミスや遅れが発生している業務はないか。
形式的に行っている業務ではないか。
なぜ担当がするのか。それは適切か。

(1) 家庭確認縮小→来年度廃止

家庭訪問という業務

訪問する必要性があって、初めて位置確認という順番でよいのではないか。

ITの導入によって効率化できる業務はないか。



以上のことから、R3年度は縮小し、R4 年度廃止。

(2) 通知表・要録の字数制限(簡略化)

通知表・指導要録の所見の字数制限を行い、担任による字数差を解消する。

→ 業務の適正化

※ ただし、本年度より、市として学習所見記入は3学期のみとなった。

(3) 退勤予定時刻の明示

- ・ホワイトボードに各人退勤時間を事前に記入。それにより不要不急な業務を互いに振ることはなくなった。
- ・「業務は原則所定内に終わらせるものであり、残業はやむを得ない場合にのみ管理職の命令で行わすもの」という意識改革→だらだら残業の解消。



(4) 「年度初め」「9月」超過勤務対策

昨年度の状況(下グラフ)から年度初めと9月に超過勤務が発生することが分かる。

① 令和3年度初め超過勤務対策

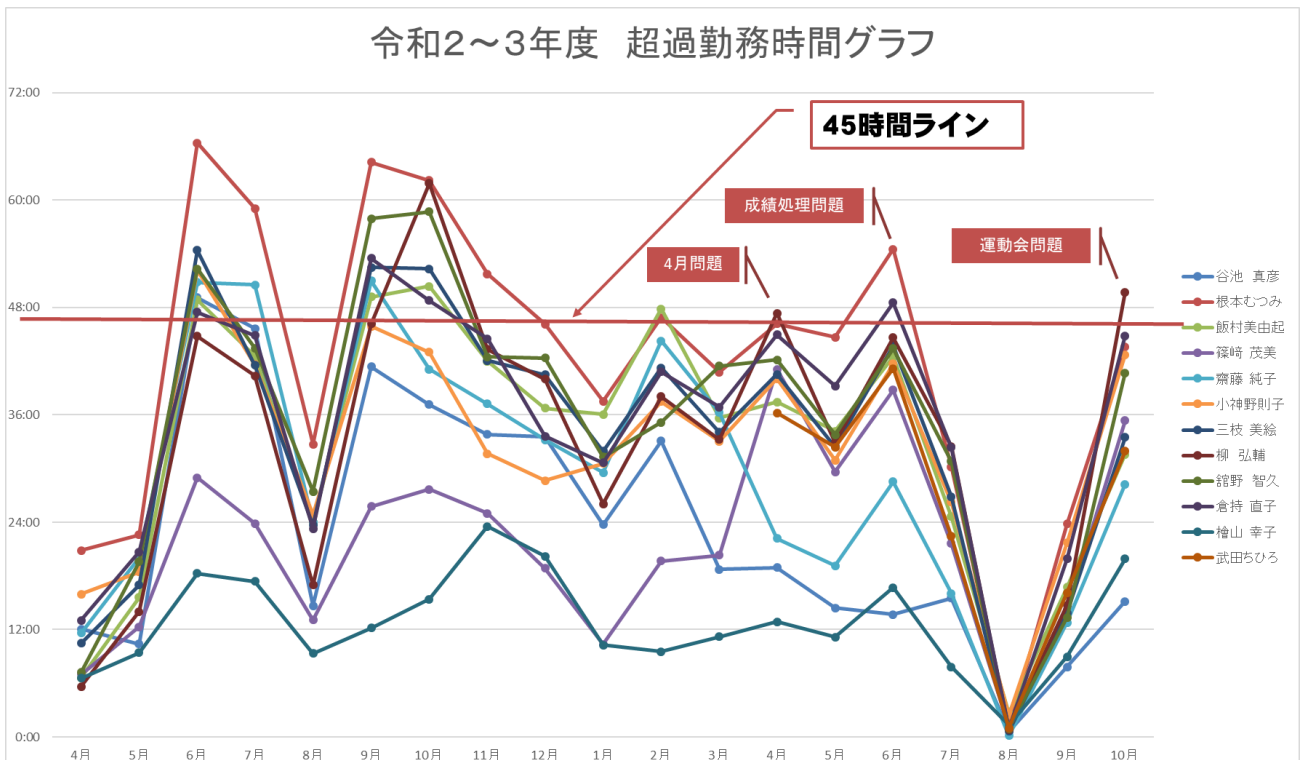
- ・ 令和2年3月24日に令和3年度校務分掌を公表
- ・ 3月25日に職員室机配置換え大そうじ実施
- ・ 以降、令和3年度の準備にあてる



ゆとりある通常業務
子どもと向き合う時間の確保

② 超過勤務対策

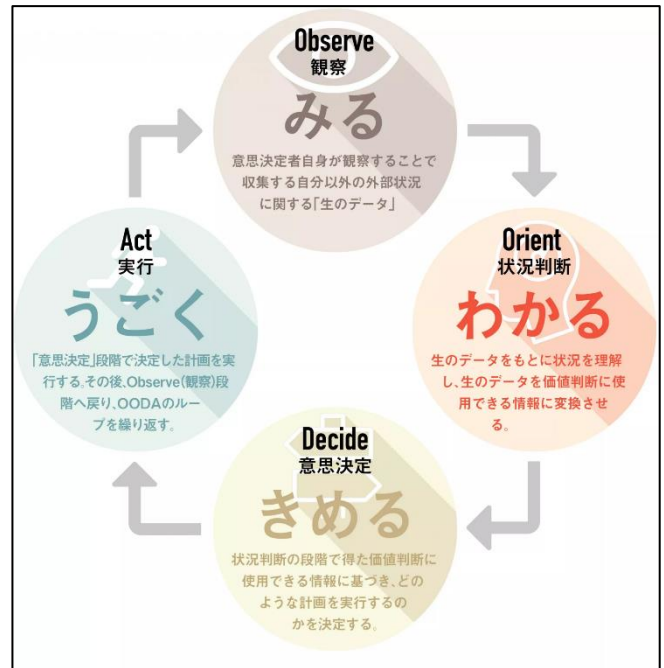
- ・ 5時間授業の増加。教材研究一コマ分を軽減&放課後の作業時間を生み出す。
- ・ 運動会実施における「会場づくりの簡素化」「種目削減」



(5) 3S-SCHOOL (Small, Smart&Safe) 構想のSmall SCHOOL について

上野小学校では、小規模校のよさを生かす＝「自主的に判断して、機敏に動く」と位置付けている。

したがってPDCAループよりもスピード重視のOODAループ(右図)を取り入れて業務改善を行っている。小規模校だからできる「臨機応変」「意思決定のスピードアップ」で業務フローを改善し、ゆとりある通常業務を実現し、子どもと向き合う時間を確保する。



上野小学校のUDXの取組みは、未だ「LifeHack(情報処理業界を中心とした「仕事術」のことで、いかに作業を簡便かつ効率良く行うかを主眼としたテクニック群)」の域を出ていない。真のDXに近づくために、IT技術学校経営の根幹に据える取組みが必要だ。